

第3次ニセコ町

子どもの読書活動推進計画

令和5年度～令和9年度

ニセコ町教育委員会

ニセコ町 子どもの読書活動推進計画 目次

はじめに	2
第一章 計画の策定にあたって	
1 計画策定の背景・趣旨	3
2 計画の対象	3
3 計画の期間	3
第二章 読書活動の現状と課題	
1 子ども対象アンケートの実施	3
2 各関係機関の取組概況	6
第三章 計画策定の基本的な考え方	
1 計画の目的	7
2 具体的な目標	8
第四章 具体的な取組	
1 子どもたちが読書を生活習慣として身につけられるような環境づくり	8
2 子どもたちが、本の世界を楽しむことができるような取組の推進	10
3 学校、家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進	11
資料編	
第3次ニセコ町子どもの読書活動推進計画策定委員 名簿	13
図書担当者会議における反省	14
子ども対象アンケート結果	17

はじめに

子どもにとって読書は、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」とされています。（「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月制定・第2条「基本理念」より。）

ニセコ町では、子どもの読書活動推進のために、幼児センター、各学校、社会教育、学習交流センター「あそぶっく」など関係者が集まり、平成25年4月に「ニセコ町子どもの読書活動推進計画」を策定しました。この第1次計画の計画期間満了に伴い、平成30年4月に第2次「ニセコ町子どもの読書活動推進計画」を策定し、本が常に子どもたちの身近にあるような環境づくりを目指し取り組みを進めてきました。

第1次計画及び第2次計画の取組は、概ね計画どおりに進められ、図書担当者の連携により学校図書館の環境改善が進んだほか、学習交流センター「あそぶっく」は年々蔵書数や貸し出し数を増すなど大きな成果と上げるとともに、令和3年には図書館類似施設から図書館に昇格しました。

一方で、平成24年、平成29年、令和4年にニセコ町内の幼児センター、小・中学校、高等学校で行ったアンケートを比較した結果、3回とも「本が好き」と回答した子どもが多い反面、年齢が上がると「本を読まない」と回答する子どもが多くなるうえ、特に高校生で1ヶ月に本を1冊も読まない人の割合がおおよそ50%もあるとの傾向に、大きな変化は見られませんでした。

また、令和4年度全国学力・学習状況調査によると、ニセコ町の小中学生は読む力と話す力は全国平均を上回るものの、書く力は全国平均を下回っているとの結果となりました。

子どもたちの読解力や創造力、思考力、表現力等を養い、主体的で対話的な深い学びを実践するためには読書活動の推進は不可欠です。

近年、コロナウィルスの感染拡大やGIGAスクール構想による学校のICT化など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。こうした環境の変化や、国や道における子どもの読書活動推進における方策を踏まえ、このたび第2次計画の計画期間満了に伴い、現行の計画の総括・評価を行い、第3次「ニセコ町子どもの読書活動推進計画」を策定いたしました。

子どもの頃に経験した読むこと自体の楽しさ、それによる充実感、満足感を得られた体験は、生涯にわたる学習意欲やウェルビーイング（Well-being）につながるるとともに、将来、その体験を子どもたちに共有していきたいという動機となり、世代を超えた読書活動の推進の循環が形成されることが期待されます。

今後もニセコ町の子どもたちがより読書に親しむことができる事業や取組の推進、読書習慣の定着を目指した環境づくり、学校や家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進に取り組んでいきたいと思っております。

終わりになりますが、計画作成にあたりご協力いただきました社会教育委員のみなさん、各学校の図書担当教諭をはじめ、関係機関やアンケート調査にご協力くださったみなさんに心より感謝申し上げます。

令和5年3月 ニセコ町教育委員会教育長 片岡辰三

第一章 計画の策定にあたって

1 計画策定の背景・趣旨

ニセコ町は、子どもの読書活動を総合的に推進するため、平成25年4月に「ニセコ町子どもの読書活動推進計画」（以下、「第1次計画」という。）を策定し、平成30年4月に「第2次ニセコ町子どもの読書活動推進計画」（以下、「第2次計画」という。）を策定しました。この計画が令和5年3月で計画期間が終了することから、これまでの成果を検証するとともに、学校・家庭・地域など関係する機関が連携し、子どもの読書活動を総合的に推進するために第3次ニセコ町子どもの読書活動推進計画」（以下、「第3次計画」という。）を策定するものです。

2 計画の対象

0歳から18歳まで

3 計画の期間

令和5年度から令和9年度までの5年間

第二章 読書活動の現状と課題

1 子ども対象アンケートの実施

第1次計画策定時（平成24年）及び第2次計画策定時（平成29年）に実施した幼児センター0歳児から高校3年生までもを対象としたアンケート結果との比較を行うため、設問内容や実施時期（7月）を同様の条件で実施しました。

また、今回より、近年普及しつつある電子書籍の利用状況について、設問に加えました。

アンケート結果では概ね本に触れる機会は確保されていますが、1ヶ月の読書量がゼロ冊の人や、あそぶっくの利用がゼロ回の人が増えており、特に高校生の読書ばなれが進んでいるとの結果となりました。

実施年	平成24年	平成29年	令和4年
総括	<p>本が「好き」「どちらかという」と好き」という回答が7割以上、本を読む理由については「おもしろい」「ためになる」という回答が上位を占める中、一ヶ月の読書量や図書館の利用については低い傾向にある。</p> <p>本を読まない理由は「読みたい本がない」「時間がない」が上位であり、多忙な子どもたちへ意図的に読書環境を提供する工夫や、子どもたちが読みたい本を見つけられるような読書アドバイス、年齢に応じた図書の整備などが必要である。</p>	<p>本に対する好感を持ち、読書の定着が見られる一方、高学年になればなるほど読書離れの傾向が見られる。本を読まない理由は「時間がない」「部活や少年団」といった多忙が理由なものほか、「読みたい本がない」といった読書環境の問題もあると思われる。</p> <p>年齢に応じた図書の整備・紹介、本が身近にある環境を整えたり、適切な読書アドバイスできる人員の配置など、読書習慣の定着に向けた取組の継続が重要である。</p>	<p>高学年になればなるほど読書離れの傾向が見られる。1ヶ月の読書0冊やあそぶっく利用0回の人が増加している。</p> <p>本を読まない理由は「時間がない」「読みたい本がない」等。多忙で、かつ、読みたい本が分からない子どもたちに、高学年ほど電子書籍の利用が増えている動向もふまえ、適切な読書環境の提供や読書アドバイス、図書室やあそぶっくにしやすい工夫をするなど、読書習慣の定着に向けた取り組みが更に求められている。</p>
「本が好き」「どちらかという」と好き」と答えた子ども	<p>どの年齢層でも7割を超える。ただし、年齢が上がると減少する。 (幼児 98%→高校生 70%)</p>	<p>全体としては増え、小学生9割、中学生8割以上となった。高校生については7割を切って減少した一方、「好き」と答えた子は増加した。</p>	<p>年齢が上がると減少する傾向は変わらないが、前回に比べると小学校低学年・高学年で減少した。 (幼児 99%・小低 88%・小高 82%・中 80%・高 69%)</p>
本を読む理由	<p>「おもしろい」が最も多い。 (低学年 81%、高学年 84%、中学 78%、高校 62%)次いで、「ためになる」「調べ物をする」が多い。</p>	<p>「おもしろい」が最も多く、小学生では増加が見られた。低学年・中学で「朝読書がある」が増加した。</p>	<p>「おもしろい」が最も多いのは同じ傾向。ただし、小学生で「朝読書がある」が減少した。</p>
一ヶ月に読む本の冊数	<p>小学校低学年で10冊以上が約55%で最多。年齢が上がると冊数は減るが、本の内容も影響していると考えられる。0冊と答えた子どもは年齢が上がると増加する。(低学年4%→高校43%)</p>	<p>前回と同様の傾向。低学年で10冊以上は減少(55→37%)したが、他の世代では概ね増加している。</p> <p>0冊は低学年で増加(4→12%)した一方、中学では減少(29→16%)した。</p>	<p>低学年で10冊以上は更に減少(37%→16%)した。</p> <p>「0冊」は年齢が上がると増加する傾向(幼児2%・小低8%・小高14%・中21%・高47%)は変わらずだが、小学校高学年(5%→14%)、中学生(16%→21%)、高校生(41%→47%)で増加した。</p>

本を読まない理由	「時間がない」が最も多く（低学年 30%、高学年 38%、中学 59%、高校 57%）、次いで「読みたい本がない」が多い。	「時間がない」が高学年を除き増加している。次いで「読みたい本がない」が多いが、低学年で増加している(14%→20%)	「時間がない」「読みたい本がない」が2大理由であるのは変わらず。高学年で「読みたい本がない」が増加した(42%→53%)。
学校終了後にすること	「部活動」「勉強」「テレビ」「ゲーム」が上位。年齢が上がると「携帯電話・スマートフォン」が増加する。	前回と同様の傾向。「携帯電話・スマホ」の中学での増加が顕著(19%→50%)	小学校高学年で「ゲーム」(32%→46%)と「携帯電話・スマホ」(6%→17%)が、高校生で「ゲーム」(30%→49%)が増加した。
一ヶ月に学校図書館へ行く回数	年齢が上がると減少。0回と答えた子どもは、小学校低学年 28%、高学年 20%、中学生 31%、高校 72%。	前回と同様の傾向。0回と答えた子どもは僅かながら減少(低学年 23%、高学年 17%、中学生 27%、高校 72%)。	前回同様、年齢が上がると減少する傾向にあるが、「0回」と答えた子どもが小学校低学年と中学校で減少したのに対し、高校生の「0回」が増加(小低 11%・小高 19%・中 18%・高 87%)した。
一ヶ月にあそぶつっへ行く回数	年齢が上がると減少。0回と答えた子どもは、小学校低学年 15%、高学年 33%、中学生 63%、高校 62%。	前回と同様の傾向。0回と答えた子どもは、低学年 19%、高学年 23%、中学生 65%、高校 63%。	前回同様、年齢が上がると減少する傾向にあるが、「0回」と答えた子どもが全学年で増加(小低 37%・小高 54%・中 76%・高 87%)した。
学校図書館・あそぶつっへ行く理由	「時間がない」「読みたい本がない」「用事がない」がともに上位。	「時間がない」「読みたい本がない」「用事がない」「部活や少年団」が上位。	「時間がない」「読みたい本がない」「用事がない」「部活や少年団」が上位。特に学校図書館では「読みたい本がない」が上位。高校生ではあそぶつっを知らない生徒もいた(自由回答欄の記載による)。
電子書籍の利用状況			年齢が上がると、電子書籍の利用が増加している(小低 4%・小高 7%・中 19%・高 31%)。高校生ではおよそ30%が紙の本より電子書籍の方が多いと答えている。なお、電子書籍では、主にマンガが読まれている。

2 各関係機関の取組概況

(1) 子どもたちが読書を生活習慣として身につけられるような環境づくり

・あそぶっくの環境整備は、学級文庫の一括貸し出しや広報誌やポスターによるオススメ本の紹介、ボランティアによる読み聞かせなど、当初計画を達成しています。蔵書冊数も増加したことに加え、これまで蔵書不足で実施していなかった大幅な除籍を実施するなど、蔵書冊数以上に生きた図書の増加を実現しています。

	平成 23 年度実績	平成 28 年度実績	令和 3 年度実績
蔵書冊数	29,469 冊(児童書 8,749 冊)	38,819 冊(児童書 11,316 冊)	37,793 冊(児童書 7,056 冊)
入館者数	44,953 人	46,978 人	19,876 人
貸出人数	9,625 人	9,674 人	8,173 人
貸出冊数	38,970 冊	48,090 冊	46,101 冊

※令和元年度に大規模な図書の整理(発行年が古く近年貸し出しの無い図書の除籍作業)を行ったため、平成28年度から令和3年度にかけて冊数が減少している

※令和3年度は新型コロナウイルスの影響により入館者数が減少している

・学校図書館の環境整備は、学級文庫や本棚の設置、あそぶっくによる学校向けの図書便りの発行など計画通りの実施となっておりますが、高校での取組が小中学校と比較して遅れが見られます。

・放課後子ども教室や学童保育所の取組は、あそぶっくの蔵書を活用した文庫の整備など良質な本に触れる機会を実現しています。また、学童保育所では図鑑を中心に子どもたちの興味のある本を毎年購入しています。

・教育委員会の役割は、図書購入費の増額などあそぶっくとの連携により概ね計画を達成しています。

・家庭への働きかけは、読書や読み聞かせの大切さを伝える啓発活動やブックスタートの実施、幼児センターでの絵本プレゼント、ラジオニセコでの読み聞かせなど計画どおりの取組が進められています。読書時間作りの啓発としてテレビを消す日・時間の奨励などのより具体的な取組は比較的遅れています。

(2) 子どもたちが、本の世界を楽しむことができるような取組の推進

・あそぶっくの取組は、ボランティアによる読み聞かせやイベントの開催、学校図書館支援員として学校図書の整理を行うなど実施されています。

・学校図書館の取組は、朝読書の実施や授業等での読み聞かせの実施、図書委員会の活動など概ね計画通り実施していましたが、コロナ禍で朝読書の時間の確保が難しかったり、委員会の活動が制限されたりしました。担任の先生や児童生徒同士による読み聞かせや、読書量や記録を振り返ることができるような取組などで中学校や高校で遅れが見られます。

・放課後子ども教室・学童保育所など関係機関の取組は、読み聞かせの時間の確保だけでなく、国際交流員の協力を得て多言語化を行うことにも取り組んでいます。また、幼児センターでは、「絵本タイム」として各家庭に月刊絵本をプレゼントし、センターと家庭で同じ絵

本を読み、絵本の世界に触れるとともに、親子の時間を持てるよう取り組んでいます。

- ・教育委員会の活動は、北海道立図書館のブックフェスティバル事業や大量一括貸出などの窓口となるほか、あそぶっくの活動支援など計画通り行っています。

- ・家庭への働きかけは、親子での読み聞かせ会参加や、あそぶっく「ちいさいおうち」事業など計画通り行っています。

(3) 学校、家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進

- ・あそぶっくの取組は、学校図書館支援のためのスタッフ派遣や学校行事への協力など計画通り行っています。

- ・学校図書館の取組は、高校での取組の遅れが見られますが、図書館職員による朝読書用図書を選書など計画通り行われています。一方で、中高生の読み聞かせボランティアなどは実現されていません。

- ・放課後子ども教室・学童保育所など関係機関の取組は、あそぶっくと連携したイベントの参加など計画通り行われています。

- ・教育委員会の取組は、図書関係者による図書担当者会議の開催や計画の進行管理など概ね計画通り行われていましたが、コロナ禍で会議の一部が開催できませんでした。

第三章 計画策定の基本的な考え方

1 計画の目的

情報化社会が進展し、私たちはインターネットなどを利用すればさまざまな情報を簡単に得ることができるようになりました。また、町内各学校に1人1台クロームブックが配布されたため、その環境はさらに整ってきています。しかし、便利な反面、自分で物事を考えずに断片的な情報を受け取る受身の姿勢をもたらすことが憂慮されており、深く考える力や自分の思いを言葉で伝える力の低下が懸念されています。文字を読むことで情景や心情を想像し、物語世界の創造を繰り返す読書活動は自主的・能動的な活動であり、子どもの豊かな感性や表現力、創造力を育む基礎となるものです。これらのことから、読書活動の充実は今後ますます必要となると考えられます。

一方で、現在の子どもを取り巻く、生活の多様化や多忙化、IT機器の普及が読書離れの原因となっていることも事実です。

そこで、子どもの読書をめぐる現状について再認識するとともに、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所で読書に取り組める環境を整え、読書が好きな子どもが増えるよう、学校・家庭・地域など読書に関係する機関が果たすべき役割を定め、子どもの読書活動を総合的に推進するために「ニセコ町子どもの読書活動推進計画」を策定します。

2 具体的な目標

- 目標 1 子どもたちが読書を生活習慣として身につけられるような環境づくり
- 目標 2 子どもたちが、本の世界を楽しむことができるような取組の推進
- 目標 3 学校、家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進

第四章 具体的な取組

目標 1 子どもたちが読書を生活習慣として身につけられるような環境づくり

子どもたちが読書を生活習慣として身につけられるよう、子どもが本と出会い、日常的に楽しく読書ができる環境を整えます。また、子どもの読書活動の意義や重要性について、学校・家庭・地域の理解と関心を深める啓発活動を行ないます。

■あそぶっくの環境整備

- ・乳幼児から高校生までそれぞれの発達段階に応じた図書の収集
- ・物語などのストーリーを楽しむ図書と、知的好奇心や調べものに対応できる図書とのバランスの良い図書の収集
- ・学級文庫などの一括貸出を意識した図書の収集とその貸出
- ・学校行事や授業内容を意識した関連本の収集や展示の計画、開催
- ・広報誌やポスター、お便りによるおススメ本の紹介
- ・図書館職員及びあそぶっくボランティアによる読みきかせやおはなし会の開催
- ・あそぶっく館内の環境整備（特に小中高生からの聞き取りによる整備）
- ・電子書籍や音声図書などの導入や1人1台端末との連携の検討
- ・PCやタブレットでの各新聞社の記事の閲覧について検討

■学校図書館の環境整備

- ・「学校図書館標準」達成に向けた図書の整備
- ・子どもたちへの希望本アンケートの実施や、良質な本の確保
- ・教員、図書委員へのアンケートをもとにした選書購入
- ・授業に必要な図書資料の充実
- ・調べもの学習のための図書の充実
- ・各学校の蔵書とあそぶっくの蔵書を比較し、収蔵していない図書を優先して選書購入
- ・電子書籍や音声図書などの導入や1人1台端末との連携の検討
- ・図書館の書籍の排架場所の整備
- ・古くなった資料の除籍
- ・学級文庫や本棚の設置
- ・担当教員や児童生徒、学校図書館支援員による図書室の明るい雰囲気作り
- ・本の整備を通し、本を大切にすることの育成

- ・ 図書便りや通信などによる啓発
- ・ 図書システムの書誌データを書き換え修正
- ・ 高校生の不読率を改善する取り組み

■ 幼児センター・学童保育所・放課後子ども教室の取組

- ・ あそぶっくの蔵書を活用した文庫の整備

■ 教育委員会の役割

- ・ 計画的な蔵書整備や施設環境の整備
- ・ 寄贈本や廃棄本を活用した公共機関の図書コーナー設置
- ・ 利用者のニーズに応じた、あそぶっくの会と連携したあそぶっくの運営方針の検討

■ 家庭への働きかけ

- ・ 読書や読みきかせの大切さを伝える啓発活動
- ・ 本の大切さの啓発やおススメ本の紹介
- ・ 読書時間作りの啓発（食後や週末など時間や日を決めて家族全員が読書をするなど）より具体的な取組方法の検討
- ・ ブックスタート事業の実施
- ・ 幼児センターによる卒園、修了記念の絵本プレゼント
- ・ ラジオニセコでの読み聞かせや新着本紹介など
- ・ P T Aによる学級文庫の選書など、保護者が読書に興味を持つような活動の推進
- ・ 調べもの学習（レファレンスサービス）など図書館の活用術の紹介

	指標	平成 24 年 度	平成 29 年 度	令和 4 年度	令和 9 年度
指標 1	1ヶ月の学校図書館の利 用0回の割合を減少	小低 28% 小高 20% 中 32% 高 72%	小低 23% 小高 17% 中 27% 高 71%	小低 11% 小高 19% 中 18% 高 87%	小低 5%以下 小高 15%以下 中 15%以下 高 50%以下
指標 2	1ヶ月のあそぶっくの利 用0回の割合を減少 (あそぶっく文庫などの 利用も含む)	幼 26% 小低 15% 小高 33% 中 63% 高 62%	幼 42% 小低 19% 小高 23% 中 65% 高 63%	幼 47% 小低 37% 小高 54% 中 76% 高 87%	幼 15%以下 小低 15%以下 小高 20%以下 中 50%以下 高 50%以下

目標2 子どもたちが、本の世界を楽しむことができるような取組の推進

子どもたちが読書の楽しさを知るために、学校・家庭・地域などが連携し、子どもの発達段階に応じて読書の楽しさを知ることができる取組を進めていきます。

■あそぶっくの取組

- ・本を読むこと、物語の楽しさを伝えること、あそぶっくの利用促進を目標としたイベント（あそぶっくまつり、クリスマス会、読み聞かせコンサート、お話しの会）の開催
- ・子どもたちが読書を楽しむことができるよう学校図書館支援員、学校との連携・協力
- ・学校の授業で使用できる資料収集とそのための情報収集を学校と連携・協力して実施
- ・「子ども読書の日」「子ども読書週間」の事業の実施と情報の提供
- ・「読書通帳」の導入の検討

■学校図書館の取組

- ・朝読書などの読書時間、読書週間の設定
- ・HRや授業時間を活用した、読みきかせや本の紹介、感想交流
- ・担任の先生や児童生徒同士による読み聞かせ
- ・図書委員会の活動
- ・読書カードの活用など、読書量や読書の記録を振り返ることができるような取組
- ・学校ブックフェスティバルやブックトークなどの読書イベント開催
- ・国語や総合的な学習の時間を活用した、本の読み方・調べ方指導、図書を利用した授業の実施
- ・各教科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学校図書館の活用

■幼児センター・学童保育所・放課後子ども教室の取組

- ・読み聞かせや読書の時間の設定

■教育委員会の取組

- ・教育委員会を窓口にした事業の実施
- ・あそぶっくの会の活動支援

■家庭への働きかけ

- ・親子での読み聞かせ会参加、読み聞かせ講座の実施
- ・親子でのあそぶっく利用推進

	指標	平成 24 年 度	平成 29 年度	令和 4 年度	令和 9 年度
指標 3	本を読むのが「好き」「どちらか」といって好き」と答える児童生徒の人数の割合	幼 98% 小低 91% 小高 90% 中 80% 高 70%	幼 98% 小低 94% 小高 96% 中 80% 高 64%	幼 99% 小低 88% 小高 82% 中 80% 高 69%	すべての校 種 80%以上
指標 4	一ヶ月の読書冊数 0 冊を減少	幼 0% 小低 4% 小高 5% 中 29% 高 41%	幼 1% 小低 12% 小高 5% 中 16% 高 41%	幼 2% 小低 8% 小高 14% 中 21% 高 47%	すべての校 種 0% (学校の教科書や参考書、マンガ、雑誌を除く)
指標 5	読書推進のための行事、イベントの実施		あそぶっくまつり、朝読書等	あそぶっくまつり、朝読書等年 2 回以上達成	各機関で 年 2 回以上

目標 3 学校、家庭、地域、関係機関が連携した読書活動の推進

読書に親しむ子どもたちを増やすため、関係職員の研修の機会を設けたり、それぞれの機関との交流や派遣事業を進めたりするなど、学校、家庭、地域、関係機関が連携した取組を進めます。

■あそぶっくの取組

- ・ 学校図書館支援のための図書館職員（司書・司書教諭）派遣
- ・ 学校行事等における出張読み聞かせやおはなし会、ニセコ高校での立ち寄り図書館
- ・ 図書館職員による学校図書館の環境整備、データベース整理、入荷本の登録、本の選書、図書館運営アドバイス
- ・ 年齢に応じた本の提供や資料づくり
- ・ 地域における課題や歴史、文化に関するイベントや関連本の展示

■学校図書館の取組

- ・ 小中高生の図書委員による朝読書用図書の選書、PTAによる学級文庫の選書
- ・ 中学生、高校生の読み聞かせボランティア
- ・ 授業の中でのあそぶっく見学（利用方法などを学ぶ）

■幼児センター・学童保育所・放課後子ども教室の取組

- ・あそぶっくと連携した、イベントの参加
- ・あそぶっくの本の団体貸出利用

■教育委員会の取組

- ・図書関係者による図書担当者会議の開催
- ・図書ネットワークを活用した図書の管理、活用方法の検討
- ・読書指導のための研修機会の提供
- ・計画の進行管理・課題解決のためのコーディネート
- ・計画の評価及び見直しをする会議の開催

	指標	平成 24 年度	平成 29 年度	令和 4 年度	令和 9 年度
指標 6	あそぶっくから一括 貸出をする貸出冊数	3,462 冊 (H23 年度)	4,859 冊 (H28 年度)	5,123 冊 (令和 3 年度)	6,000 冊以上
指標 7	関係職員の情報交流 会、研修会		図書担当者 会議、学校図 書館支援員	図書担当者会 議年 3 回開催、 学校図書館支 援員年 100 回 派遣	図書担当者会議 年 5 回程度 学校図書館支援員 年 100 回程度

【資料編】

◎第3次ニセコ町子どもの読書活動推進計画策定委員 名簿

輪島 絢香	ニセコ小学校教諭
加藤 峰彦	近藤小学校教諭
安井 美南	ニセコ中学校教諭
清谷 凌	ニセコ高等学校教諭
小坂 みゆき	ニセコ町学習交流センター事務局長
横尾 ひとみ	学校図書館支援員
朝倉 和美	学校図書館支援員
澤田 歩依	学校図書館支援員
辻本 康恵	学校図書館支援員
馬淵 由香	教育委員会学校教育課学校教育係長
谷井 彩乃	教育委員会こども未来課こども未来係長
(事務局)	
中村 正人	教育委員会町民学習課課長
山崎 英文	教育委員会町民学習課町民学習係長